

# 「ニューサチホゴールドデン」の栽培のポイント

## ★「ニューサチホゴールドデン」と「サチホゴールドデン」の違いとは・・・

「ニューサチホゴールドデン」は、優れた醸造品質と多収性を持つ「サチホゴールドデン」の長所はそのままに、ビールの鮮度の劣化原因である原麦リポキシゲナーゼ(LOX-1)が欠失した品種です。

**基本的な栽培方法は「サチホゴールドデン」と同じです。**

### 播種

- 播種量は8.5kg/10a程度。必要以上に播種量を多くすると穂数は増えますが、粒の重さが軽くなります。
- 播種量が多いと側面裂皮粒の発生が増えます。
- 播種量が少ないと穂数不足に陥り、収量が不安定になります。また、子実粗蛋白質含量が高くなります。
- **播種適期** (県北部：11月1日～10日 県中部：11月6日～15日 県南部：11月9日～18日)
- 極端な早播は凍霜害の危険性を高めます。
- 播種期が遅くなると穂数が少なくなり、整粒重が減少します。また、子実粗蛋白質含量が高くなります。
- 早播や遅播は側面裂皮粒が増加します。



降雨後の圃場  
(左：排水溝なし 右：排水溝あり)

### 排水対策

- 播種前に排水対策を徹底する。
- 圃場周囲に額縁状に排水溝を設置し、圃場外の排水路に繋がます。
- 浸透排水性を良くするためには、本暗渠と直交するように組み合わせて心土破碎を行いましょう。

### 土づくり

- pH5.5以下になると極端な生育不良になる。pH6.5を目標に苦土炭カル等を施用しまししょう。水稻後で60～100kg/10aが施用量の目安です。
- 黒ボク土や気温の低い地域(低温年)では、燐酸肥料を増肥し、根の発達や分けつを促進させると生育が良くなります。
- 可給態燐酸が不足している圃場は、苦土炭カルと併せて燐酸質資材を施用することにより、増収効果と子実粗蛋白質含量の低下が期待できます。
- ビール大麦の止葉が早期に数珠玉状に黄化するの苦土欠乏です。葉が早期に黄化すると光合成不足となり、粒の充実が悪くなります。
- 苦土欠の状態では燐酸が十分に存在しても吸収できなくなってしまいます。
- 良質堆きゅう肥の施用も有効です。ただし、未熟堆肥の施用は雑草繁茂の原因となるので避けましよう。

### 施肥

- 窒素施肥量は、水稻後で6.5～8.0kg/10aを目安とします。大豆後では水稻後に比べ3～5割程度減肥します。
- 増肥すると穂数が増加します。また、粒の重さも増加します。しかし、過度の多肥は子実粗蛋白質含量が高くなります。なお、春先以降の追肥は粗蛋白質含量を高めてしまうので、厳禁です。
- 少肥栽培すると側面裂皮粒の発生が増えます。
- 前作や土性、子実粗蛋白質含量の分析結果等を勘案し、必ず専用肥料を使用しまししょう。一般に、砂質土では窒素成分を1～2割増肥します。

### 麦踏み

- 効果は、茎数の増加、耐干性・耐寒性の強化、倒伏防止及び主稈・早期分けつ茎の幼穂形成遅延による凍霜害回避などがあります。
- 2.5葉期を過ぎたら年内に1～2回、年明け後から茎立直前までに2～3回行いまししょう。
- 年明け後から茎立期は、暖冬年での茎立ちの早期化を抑え、春先の低温による幼穂凍死を回避する効果が期待できます。
- 茎立期直前は、穂揃いを良くし、成熟ムラの無い倒伏しにくい麦にする効果があります。
- 踏圧の接地圧が大きすぎると生育不良になるので注意しまししょう。
- 土壌水分が高いときは、土壌が硬くなり生育不良を招くので行わないようにしまししょう。



麦踏み  
(良い例)



麦踏み  
(悪い例)

### 病害虫防除

- 斑葉病が広がってきていますので、種子消毒は必ず実施しまししょう。(浸漬処理が効果が高い)

表1 オオムギ斑葉病に登録のある主な薬剤(平成30年8月31日現在)

農薬名	使用方法	希釈倍数・使用量	使用時期
ベンレートT水和剤20	10～20分間種子浸漬	20倍	播種前
	6～24時間種子浸漬	200倍	
	種子粉衣	乾燥種子重量の0.5%粉衣	播種前
ベフラン液剤25(劇)	10～30分間種子浸漬	250～500倍	播種前
ホームイ水和剤	6～24時間種子浸漬	200倍	播種前
	種子粉衣	種子重量の0.5～1.0%粉衣	播種前
ベンレートTコート	種子粉衣	乾燥種子重量の0.5%粉衣	播種前

- 赤かび病の防除を徹底しまししょう。  
(赤かび粒は、農産物検査において「混入しないこと(混入率0.0%)」と定められており、混入した場合は販売出来ません。)

防除適期	多発の恐れがある場合(不稔粒発生・登熟期連続降雨など)
穂揃期 7～10日後	1回目散布の7～10日後に2回目散布を行う

### 収穫乾燥調製

- ビール大麦は発芽勢が命です。早刈りは発芽勢を低下させるため絶対に避けまししょう。遅刈りも外観品質を低下させるので避けまししょう。
- 収穫適期は、成熟期から3～5日後頃で、穂首の曲がり角が90度になった穂が圃場の80%になった頃(穀粒水分が25%以下)とします。
- 穀皮が薄く、剥皮しやすいので、コンバイン収穫時は試し刈りを行って回転数に留意しまししょう。
- 収穫後は速やかに乾燥機に搬入し、直ちに乾燥または送風し、「ムレ」による品質低下を防ぎまししょう。
- 急激な乾燥は発芽障害の発生を増加させるので絶対にやめまししょう。調製も丁寧に行い、剥皮発生を避けまししょう。